第41回「企業広報賞」表彰式を開催

優れた企業広報を実践している企業と経営者、広報実務者に贈る「企業広報賞」の表彰式を９月29日、経団連会館で開催した。表彰式では、経済広報センターを代表して、筒井義信会長（日本生命保険特別顧問）が受賞者に表彰状・トロフィーを贈呈した。

主催者あいさつ

筒井義信（つつい・よしのぶ）
経済広報センター　会長

私たちを取り巻く内外情勢は目まぐるしく変化し、リスクが常態化する混迷の時代を迎えています。こうした中、企業がフロントランナーとして未来を切り拓き、将来世代への責任を果たすことが重要です。私は、中長期ビジョン「FUTURE DESIGN 2040」を発展的に継承し、「成長と分配の好循環」を実現することで、あらゆるリスクにレジリエントな経済社会を構築したいと考えています。この難局を打開するためには、企業・経済界が、様々なステークホルダーの理解と共感を得ながら社会課題を解決していくことが不可欠です。

「企業広報大賞」を受賞された株式会社りそなホールディングスは、全てのステークホルダーとの対話を大切にする丁寧で地道な広報を展開され、広報に携わる方々の模範となる取り組みが高く評価されました。「企業広報経営者賞」は、株式会社ファミリーマートの細見研介社長が受賞されました。圧倒的なリーダーシップと独創性で広く存在感を示されました。「企業広報功労・奨励賞」を受賞された株式会社西日本シティ銀行 広報文化部の皆さまは、地域密着型の活動などを通じ社会との関係を大事にしてこられました。西松建設株式会社の平山勝基広報部長は、150周年をブランド戦略の要とし、企業イメージ向上に貢献されました。

本日受賞された皆さま方に、心よりお祝いを申し上げますとともに、日頃より企業広報を通じて社会課題の解決に挑み続けていらっしゃる皆さまに深く敬意を表する次第です。

企業広報大賞

株式会社 りそなホールディングス

南　昌宏（みなみ・まさひろ）
取締役 兼 代表執行役社長 兼 グループＣＥＯ

受賞の言葉

今回の受賞は、りそなグループがこれまで大切にしてまいりました、インテグリティ、オープンマインド、そして社会との信頼関係の構築という極めて地道な取り組みにスポットライトを当てていただいたものと受け止めております。

当社の広報活動は、これまで２つの大きなステージを歩んでまいりました。

第１のステージは、2003年の りそなショックを起点に、りそな改革、りそな再生を経て、2015年の公的資金返済に至るプロセスです。この間、広報の役割は単なる情報発信を超えて、信頼回復に向け社会と当社をつなぐ重要な架け橋であり続けました。

第２のステージは、グループ発足から20周年を機に「第２の創業」を掲げ、次世代のリテール金融のフロントランナーを目指してギアチェンジを行った現在のステージです。

2003年以降、グループの理念を再整備し、新たな中期経営計画をスタートさせました。「金融＋で、未来をプラスに。」というパーパスには、どのような状況でもお客さまの困り事や社会課題の解決に全力を尽くす金融グループでありたいという思いが込められています。今後も金融環境の変化に柔軟に対応しながら、従来の常識や価値観にとらわれることなく、金融の枠を超え、りそなグループを挙げて挑戦を続けてまいります。そして、この思いやプロセスをこれからも誠実に、前向きに発信してまいる所存です。

選考理由

歴史を踏まえ設定した「金融＋で、未来をプラスに。」というパーパスの下、全てのステークホルダーとの対話・コミュニケーションを大切にした広報活動を推進している。取材要請に対しても常にオープンで誠実な姿勢を堅持。記者懇談会や勉強会による丁寧な情報発信、経営陣と報道機関との関係構築にも積極的に取り組んでいる。新紙幣発行時など様々な場面において、全国主要拠点間の緊密な連携も進めつつ、きめ細かい取材対応を行い、各社報道につなげた企画力、統率力も印象深く、評価された。

企業広報経営者賞

細見研介（ほそみ・けんすけ）
株式会社ファミリーマート
代表取締役社長

受賞の言葉

このたびは名誉ある賞を頂き、ファミリーマートの国内１万6400店舗、海外8600店舗で働く約30万人のスタッフと社員・役員を代表して厚く御礼を申し上げます。

当社のビジネスモデルは、ファミリーマートの加盟店を通じて地域社会と生活者に貢献するというものです。多岐にわたる活動を地域社会に正しく伝えながら相互理解を深めていくために、広報は極めて重要な役割を担っています。

2011年に「Software is eating the world」とマーク・アンドリーセンが予言した通り、今や生活者にとってスマホを介したデジタルの世界は欠かせず、地域や消費者との相互理解を深めるには、リアルだけでなくデジタルを通じた取り組みが必須となっています。当社は近年、リアル店舗に加え、自社アプリ「ファミペイ」、店舗内デジタルサイネージのネットワーク化を推進してまいりました。現在では、入店客1500万人／日、アプリ会員2700万人、サイネージ視聴者1000万人／日へ情報発信が可能となっています。

このネットワークを、自治体と連携し防災や災害対応などの情報を発信する広報プラットフォームとして活用する取り組みが始まっております。今後も皆さまのお知恵をいただきながら、社会に貢献できる新しい取り組みに挑戦してまいります。このたびの受賞を機に、社是「あなたと、コンビに」の実現に向け、全社一丸となって尽力する所存です。

選考理由

経営方針や社会課題への取り組みを幅広いステークホルダーに向けて自身の言葉で積極的に発信している。広報活動における圧倒的なリーダーシップとインパクトのある広報効果で広く存在感を示した。業界の常識を覆す品質とデザインで大きな反響を得た「コンビニエンスウェア事業」や、トップ自らが企業の姿勢を明瞭に伝えた主力商品発表会などで発揮された主体性、独創性、行動力は特筆に値する。

企業広報功労・奨励賞

株式会社西日本シティ銀行
広報文化部
小湊真美（こみなと・まみ）
取締役常務執行役員
（チームでの受賞）

受賞の言葉

西日本シティ銀行は昨年（2024年）おかげさまで、創立20周年を迎えました。当行は、「無尽」をルーツとする西日本銀行と福岡シティ銀行が2004年に合併して誕生した地方銀行で、「地域の発展なくして、西日本シティ銀行の発展なし」という不変の信念の下、地域とともに歩んでまいりました。このたび、これまでの長年の取り組みが評価され、企業広報功労・奨励賞という栄えある賞を頂けたことを心よりうれしく思います。

表彰いただいた「広報文化部」は、調べた限り全国の地方銀行の中でも唯一の名称であり、合併後の2007年に従来の「広報部」を改称しました。以降、「広報文化部」はメディア対応や広告宣伝活動にとどまらず、歴史・文化の発展に資する地域貢献活動に積極的に取り組んでいます。私自身、支店長時代に地域社会と深く関わる中で、実践した取り組みをメディアに発信することの重要性を確信しました。メディアへの情報発信が地域の発展、ひいては当行の発展につながると考え、私たちは広報活動に取り組んでいます。

最後に、日々、私たちの活動に真摯（しんし）に向き合ってくださるメディアの皆さまに、心より感謝申し上げます。このたびの受賞を大きな励みとし、お客さま、地域・株主の皆さま、そしてメディアの皆さまとともに、地域の持続的な成長や企業価値の更なる向上にまい進してまいります。

選考理由

旧西日本銀行と旧福岡シティ銀行が合併し、創立20周年（2024年）。「地域の発展なくして、当行の発展なし」との変わらない信念の下、広報部を「広報文化部」と改称し、多様な地域貢献活動を展開。「フードドライブ活動」による子ども食堂支援や未来を担う子どもたちへの継続的な金融リテラシー教育を実施している。独自の公式キャラクターを活用した地域密着型活動も注目され、社会に対する真摯な貢献が高評価につながった。

企業広報
功労・奨励賞

平山勝基（ひらやま・かつき）
西松建設株式会社
広報部長

受賞の言葉

西松建設は昨年（2024年）創業150周年を迎えました。当社がこれまで手がけた約13万件の全プロジェクト、そしてその一つひとつに込められた技術者の知恵、職人たちの情熱、それを支える社員の努力によって、私たちの広報活動は輝きを増すことができました。当社グループで働く全ての仲間たち、私たちの活動をいつも温かく見守ってくださっている皆さまと、この賞を分かち合いたいと思います。

広報の仕事は、ひと言で言えばファンを増やすことだと考えます。ステークホルダーの皆さまが当社のファンになり、西松建設を選んでくださることで、会社の価値も向上すると信じています。そのためには、会社の歴史、技術、働く人々の思いを社会に伝え、つないでいくことが不可欠です。広報は、会社の顔として、また社会との橋渡し役として、時に厳しい声も、温かい励ましも受け止める、やりがいのある仕事です。

建設業界は今、大きな転換期を迎えています。持続可能な社会の実現、デジタル技術の活用、そして何よりも人々の安全と安心を守るという使命は、ますます重要となっています。西松建設はこれからも、その使命を胸に、未来の社会をつくるパートナーとして、着実に歩みを進めてまいります。皆さまのご期待に沿えるよう、これからも精進してまいります。本日は誠にありがとうございました。

選考理由

社会における存在意義を常に問い直し、信頼回復への取り組みの最前線で広報活動を力強くけん引。創業150周年（2024年）をブランド戦略の要と位置付け、少数精鋭の体制で情報発信を多角的かつ戦略的に展開し、企業イメージを飛躍的に向上させた。明確な目的意識を持ってまい進し、対外的なイメージの改善だけでなく、インターナルコミュニケーションの活性化にも大きく寄与している点が高く評価された。

第41回企業広報賞

表彰式に続き、パーティーを開催

表彰式に引き続き開催したパーティーには、受賞企業関係者、選考委員、メディア関係者、会員など130人がご列席。篠原弘道副会長（ＮＴＴ相談役）によるあいさつの後、歓談が続いた。

あいさつ

篠原弘道（しのはら・ひろみち）
経済広報センター　副会長

「企業広報賞」は40年以上にわたり、時代の変転とともに歩んでまいりました。「企業広報賞」にご支援くださった全ての方々に、深く感謝申し上げます。

経団連ならびに経済広報センターは、成長と分配の好循環を通じて、公正・公平で持続可能な経済社会の確立を目指しており、企業が社会との対話を深め、共感を得ながら山積する様々な課題を解決していくことや、お客さまが求めるものや喜んでいただけるものを、お客さまとともに考え、見いだし、実現していくことが大事であると考えます。

本日ご受賞された皆さまは、それぞれのやり方で企業広報の模範となる取り組みを進めていらっしゃいますが、共通しているのは、広報を単なる一方通行の情報発信としてではなく、ステークホルダーの皆さまと対話し、共感を得ながら新しい価値を生み出していく活動と捉え、課題解決につなげてこられた点です。選考委員の方々が高く評価されたのは、こうした社会と向き合う皆さまの真摯な姿勢であると思います。

企業広報は企業自身の発展に欠かせない活動であると同時に、社会や地域の発展に対して極めて重要な役割を担うものでもあります。日本各地で日々企業広報に懸命に取り組まれている方々の更なるご活躍を祈念いたします。